

水野日向守殿・堀丹波守殿(後)兩人早速南都まで参り可申との上意にて、則着陣の旨風聞候付て南都へ之働不罷成、直に

郡山之南口五町目と申所へ打出、それより四里南の當麻(ママ)今井村と申大村有_レ之、彼所を放火すへしと彼方の道筋在々放

火致し参候、今井と申ハ元来兵部と申一向坊主取たての所故、兵部之一族檀那共を催し今井之西口に打出て鉄炮を打

かけしかは、乱に押入事不成して、それより乾隅の方法隆寺表を通り関屋越に引とる道筋に百濟村と申方をも放火

し、扱また高取の城には本多因幡守殿三万弍千石にて領知在城にて候、又宇知郡二見と申所には松倉豊後守殿壹万石

にて居す、大坂より大和焼働に打出候由被聞付、早速馬上のもの六十騎余にて三里打出、五所(御)之西三本松と申所にて具足櫃

に腰をかけ兵糧をつかひ申され候、其間に高取・五所(御)へ使者を以

被申入候ハ、大坂より焼働に罷出候由承り打留むへくと存、是迄押出候、各にも御出候て可然之旨とあれとも、兩人衆ハ、尤大坂より

打出候人数大軍にて方々を放火し高取・五所(御)へも押寄申へきのよし聞及候故出不申候と返答あれは、豊後守殿以ての外

腹立にて、我等より知行高にて人数も多く可有之に不出候事、豊後守に打死致させて詰りハ出家に可成哉と被申候、後

詰無之とても早速掛向ひ討留むへきと馬之足をはやめ急候所に、早関屋之方へ引取之由被聞候而、直に片岡へ掛り関屋へ

出合可被申覚悟にて一騎掛りに急かれ候得とも、(程カ)□を經申故大坂人数ハ国分へ引取申候、然とも国分境まで追かけ

草臥候者ともを三四人も討取、生捕も一兩人いたし、伏見へ